

平成24年度第1回八街市地域公共交通協議会 会議要旨

○日 時 : 平成24年9月19日(水) 午後3時～午後5時

○会 場 : 八街市総合保健福祉センター3階 大会議室

○会議要旨:

6. 議題

(1)八街市地域公共交通協議会規約(案)について

- ・承認

(2)会長の選出、副会長及び監査委員の指名について

- ・会 長 小澤誠一(八街市副市長)
- ・副会長 轟朝幸(日本大学理工学部教授)
- ・監査委員 越川芳勝(区長会長)
伊藤昌央(千葉県総合企画部交通計画課)

(3)八街市地域公共交通協議会会議運営規程(案)について

- ・承認

(4)八街市地域公共交通協議会傍聴規程(案)について

- ・承認

(5)八街市地域公共交通協議会財務規程(案)について

- ・承認

(6)八街市地域公共交通協議会事務局規程(案)について

- ・承認

(7)平成24年度事業計画(案)について

- ・承認

(8)平成24年度八街市地域公共交通協議会予算(案)について

- ・承認

(9)八街市の公共交通の現状について

- ・事務局 : (資料「第1回八街市地域公共交通協議会資料(八街市の公共交通の現状について)」に基づき説明)
- ・佐藤委員 : 提出された資料は、八街市の公共交通に関して、市民が日常感じていることが良く表れていると感じた。今後の高齢化社会を見据えたとき、車がなるとどこにも行けない状況では困るので、一日も早く、公共交通を充実させるべきだと考える。
- ・轟委員 : 2つ質問がある。
1つは、市内の移動に関して、市内のどこに住んでいる人がどこに行きた

いと考えているのかが知りたい。資料があれば教えてもらいたい。なければ今後分析してもらいたい。それがわかれば、公共交通がどこにどの時間帯に必要なのかがわかる。

2つめは、路線バス、ふれあいバスの便数が少ないことが気になるので皆様にお聞きしたい。路線だけ見ると充実しているが、それで、市民生活に支障がないかが疑問に思う。日中に便がなくても、不便ではないのか？このダイヤ設定で満足されているのか？をお聞きしたい。

・事務局 : 1点目については、現在実施中のアンケート調査の設問で、市内の各地区の方がどこに行きたいと考えているのか等について把握できるので、次回にその結果をご報告させていただきたい。

2点目について、ふれあいバスは、各コース、概ね6便で運行しているが、市民の皆様からは、便数を増やしてほしい要望ある。また、乗車時間が長いので、短くしてほしい等の要望がある。市では、各地域の要望をふまえて、いろいろなところを巡回するようルートを検討し、現状のルートになっている。今後のふれあいバスのあり方については、これから検討して頂きたい。

・小澤会長 : ふれあいバスについても、この協議会でいろいろご意見を頂いて、そのあり方を検討していきたい。本日は、問題提起を頂いたので、事務局で受けとめたいと考えている。

・土屋委員 : 定時性確保のネックとなっている八街十字路について、その渋滞解消のための道路整備等についても、この協議会で検討するのか、道路整備までは触れないのかを確認したい。

・事務局 : 八街十字路の渋滞解消につながる八街バイパスの早期整備を要請していきたい。道路整備計画は、この委員会では検討しない。

・小澤会長 : 他に意見がなければ、(10)その他として、公共交通のあり方等について、ご意見を頂きたい。

(10)その他（公共交通のあり方に関する意見）

・稗田委員 : 普段、路線バスを乗務して気づくことですが、路線バスとふれあいバスのルートと時間が重複していることがあり、非効率に感じるので、重複しないで利便性を高める考え方を検討してほしい。

・事務局 : 具体的にはどこの箇所のことか。

・稗田委員 : 実住小学校あたりで、路線バスより10分程度早い時間に、ふれあいバスが運行していることで、路線バスの利用者がいないことがあるので、重複を避ければ、利便性が上がるのではないかと考えている。

・事務局 : 実住小に関しては、平成19年度に、子どもの防犯上の考えから、ふれあいバスを活用して登下校ができるように、ダイヤ改正を行った経緯がある。実住小の子どもの登下校については、他の利用客が乗り切れないという苦情も出ているので、出来るだけ分散的に分担できるよう、路線バスとふれあいバスの共存共栄を目指して、そのあり方を考えていきたい。

・小澤会長 : それでは、最後に轟先生から、何かございますでしょうか。

・轟委員 : 感想ですが、八街市のふれあいバスは、各地域をきめ細かく網羅するルー

トになっているが、基本的にはルートはシンプルな方が利用しやすいと考えている。多少時間がかかっても地域を細かく拾っていくか、ルートをシンプルにして目的地に早く到達させるか、どちらを選択するのかは議論であろう。今後の方針のポイントと考えている。

そこで、どういう方が利用しているのかが気になる。ふれあいバスは利用客が多いので、おそらく通勤・通学客が利用されていると考えられるが、これらのニーズは、時間をかけたくないはずで、日中の買い物等の利用のように、できるだけ自宅や目的地の近くに行きたいというニーズとは異なるであろう。場合によっては、時間帯でルートを変えることも考えられる。どちらにしても、現在は利用していない潜在的なニーズも含めて、ニーズをしっかりと理解して、ルート、ダイヤのあり方を検討することが必要と考えている。

公共交通は、シンプルなほうが利用しやすいと考えている。ルートをシンプルにして頻度を上げることがよいと考えているので、今後議論を重ねていきたい。

- ・小澤会長：どうもありがとうございました。それでは、本日は終了とさせていただきます。